

目標達成計画

事業所名: グループホームつつじ

作成日: 令和 1 年 12 月 11 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくなならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1 (1)	職員育成における日々の積み重ねの中で、『理念あつての支援』であるという意識を今後も育てほしい。	職員一人ひとりが理念を理解しそれを基本にしたケアプランに基づき全員で質の高い支援を目指す。	外国人職員もおり、日本語の理解が難しいこともあり、理念を分かりやすい言葉にして日頃から説明し理解を求めている。すべてをしてあげる介護ではなく、本人の望みを大切に、出来ることを続けていける支援を行っている。	6ヶ月
2	6 (5)	ひき戸の鍵については、日常的に必要性があるかなど検討を重ねていただきたい。	中扉の施錠の意味を職員が全員理解をして、利用者様の自由を損なわないよう検討を続けていく。	中扉の鍵は閉じ込めるためのものではなく、不審者の侵入防止のワンクッションでもある。これからの季節感染症予防のための空間もあり、希望があればいつでも開錠している。一人で外出されると戻って来られない症状もあり、職員が同行して護っている。	3ヶ月
3	35 (13)	消防署立ちあいの訓練を実施して、専門的アドバイスを受けてはいかがか。	年1回の消防署職員立会いによる消防避難訓練と立会い無しの避難訓練の報告を行う。	消防署他事業所と打ち合わせを含めた準備期間を入れ消防署職員立会いによる避難訓練を12月4日に行った。今後も年1回行う予定。	3ヶ月
4	36 (14)	利用者の状況にあわせた支援は、その時々によって変化していくという意識をもってテーブルの高さ等にも配慮してほしい。	指摘された利用者様は白内障もあり、お膳の上にあるものもよく理解出来なく、食べ物の説明などを行っている。しっかりと左手で食器を持ち食べていたので、不自然さは感じていなかった。外部からの見方も考慮し、改善する。	指摘された利用者様は馴染みのある他者と同じテーブルでの食事希望があり、厚めの低反発のクッションを二枚重ねにすることにより、本人の希望を大切にしながらもテーブルとの高さ調整が可能となった。その後も本人の不穩になる要因は発生していない。	0.5ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。